



かんろだいのふしを 我が事と受け止め

8月大教会教会長会議

立教180年8月22日

大教会長 片山幹太

本島通信

発行所 〒763-0223 香川県丸亀市本島町泊268

天理教本島大教会

電話 0877-27-3321 (代)

本島通信編集室 R170824-0827-15

奈良県天理市指柳町270-1

本島話所 〒632-0093

電話 0743-63-1571 (呼)

Email: news@honjima.com

発行部数: 935部 (先月比-14)

大教会 朝夕おつとめ時間

[9月1日~9月15日]

朝づとめ 午前6時15分

夕づとめ 午後6時45分

[9月16日~9月30日]

朝づとめ 午前6時30分

夕づとめ 午後6時45分

本日は大変暑い中、時々さわやかな風が神殿を吹き抜けるときもありましたが、久しぶりに大汗をかきながら祭典を滞りなく勤めさせて頂きました。誠にありがとうございます。

さて、先月(7月)26日午後6時20分、おちばで侵入者によりかんろだいの上部が倒されるといふしを見せられました。今日はそのことについて思いました。今日はそのことについて思いました。少しお話ししたいと思います。まず天理時報では「反省の意を強く持ち」と題して内統領・山澤廣昭先生の言葉が掲載されており、こちらを拝読させて頂きます。

【天理時報7月30日号を読み上げる】

思い返しますと今から17年前の6月26日にも同じように、かんろだいのふし、がございました。その時は月次祭の祭典中、九下り目の最中でありました。そこで、この機会に当時の真柱様のお言葉を真柱訓話集に求めたいと思います。立教163年7月5日、「かんろだいええかえ事始め」のお願いづくめに

先立ち、本部の在籍者と直属教会長に對するお言葉がございました。そのとき、次のおさしづを引用されました。「皆んなこれ教という理がある。教に従うて通らんから、綺麗な道がむさくろしいなる。皆行き難い道を尋ねて捜すからどんならん。」(明治30年11月13日)

続いてこのおさしづについて、

「私たちは、教理については一応頭には入っていて、そして日々それぞれご用をつとめながら通っているのです。ところが、分かっていて、自分でこれだいいと思っても、親神様のお目からご覧になれば、そうではない、きれいな道をむさくろしくするよいうな通り方をしていることがあるんだぞということ、このお言葉はご指摘くだされているのではないかと思うのであります。知らず知らずのうちに教えを通りやすいように解釈したり、自分の都合の良いように悟ったりして、教えを自分に合わせようとしているよいうなことはないか。振り返って、よく反省をしなければならぬと思うのであります。」

いま振り返ってみても、つい通りやすいように、教えを自分に合わせて悟っていることがよくあることに、

反省ばかり思い浮かびます。現在もまだ、かんろだいは2段までの状態です。参拜された方は、一様に皆驚かれます。

私は7月30日、神殿奉仕当番でしたが、そのときはまだご存知でない方がたくさん居られました。こどもおちばがえり期間中、子供達を神殿案内する引率の教会長さんが、かんろだいをどのように説明したら良いのか苦心されている光景が多く見受けられました。

私自身も朝づとめに参拜したときなど、今まで当たり前のようにかんろだいを拝し、おちばに身体を向けておりましたが、現在は見えませんから、自分の方向がおちばに向かっているかどうか分かりません。結果の近くに寄って、のぞき込んで初めておちばの位置を確認することができません。これまで、かんろだいを拝していたからこそ、おちば・親神様に正しく向いておつとめを勤めることが出来たことに気がきました。

これは私の勝手な思案ではありますが、親神様は私達に、「もつと近くに寄ってきなさい。私は親ですよ。もつと頼りなさい」と思召されているのではないのでしょうか。

これまでは朝づとめ参拜だけで終わっていたのが、これからは一日に何度も参

拝させて頂き、一日のお願いだけでなく、一日のお礼も申し上げる。もっと足繁くおちばへ心と身を運ぶ生活を送らせて頂きたいと、心を定めさせて頂きました。

7月24日夕づとめ後、いよいよ「かんろだいなすえかえ之儀」が執り行われます。前回の「すえかえ之儀」と同様にお供えを運ばせて頂きたいと存じます。

大亮様ご結婚お祝い、2代真柱様50年祭の御供と続きますが、どうか会計の方までお届け頂けたらと思います。よろしくお願ひします。

(文責・本島通信編集室)

青年会本島分会委員辞令

(立教180年8月22日付)

委員長 片山秀明 (本島)
副委員長 伊東賢太郎(本備前)
副委員長 鎌田康典 (攝津)
委員 佐志晃文(本十嘉)
委員 内橋和博(本米臺)
委員 神前和博 (攝良)
委員 菅岡繁理 (本高)
委員 井上周平 (本勇)
委員 後藤真也(御幸濱)

【以上9名】

本島大教会 神殿講話 (要旨)

【立教180年8月22日】

不足の言葉を出さぬよう、 親の姿勢を子は見て育つ

大教会役員夫人 高垣恒子 たかがきつねこ

只今は大教会長様を志に8月の月次祭を皆様とともに勤めさせて頂きましたことを、心よりお礼とお慶びを申し上げます。

このたび大教会長様より「次代を担う人材の育成をどのように努めてきたのか」をお話するように御命を頂きましたので、しばらくの間お付き合い下さいますようお願いいたします。

二代真柱様は「難しい教理は第二の問題として、小さな時分からしっかりと教理という理屈ではなく、習慣という身についたものにして頂きたい」と仰せられました。

私の長男は現在、崇徳分教会の会長を勤め、子供は女子4人、男子1人をお与え頂いております。

大教会青年づとめが終わり、家族で教会に住み始めのときに、一つの約束をしました。それは「神殿は、みんながお話をする場所。おつとめやおさづけを取り次ぐところだから、いつもきちんとしておくように」ということです。

今から35年前(昭和57年)、主人が大教会青年づとめの最中、片山俊次3代会長様より事情教会となっていた崇徳分教会の復興を命ぜられました。長男

が小学5年、次男が小学4年、長女が幼稚園でした。

3代会長様のお話では「事情教会の移転復興には、信者および親戚縁者にいたるまで掘り起こしをして、教会にかかる普請のすべてを崇徳で担うよう、難渋な道を通ってくれ。布教はしなくてよろしい」というお諭しでした。

主人はその言葉を頂いて「きつとこれからの難渋な道で、お道への不足、親への不足が起こりうるかもしれない。しかし、これから先、子供達にお道をしっかりと歩んでもらうためにも、子供の前では不足の言葉、切る言葉は使わない。もし不足が湧き上がってくれば、すべて夫婦で語り合い、胸の中で納消する」と心を定めました。

実際のところ、信者の掘り起こしは大変でした。一筋縄ではいかないのです。一度信仰から遠ざかった方達です。顔を合わせるなり親と教会の不足ばかりなのです。

事情教会の復興にともない、教会移転ふしんにかかった費用は3千万円。しかし教会につながっている信者さんはゼロ。お与えはゼロ。すべてゼロで、私共からすれば貧のどん底です。

3代会長様は「布教はしなくてよろしい」と仰せられましたが、一度切れ



た信者さんの掘り起こしは実に難渋な道でした。教祖ひながたの「水を飲めば水の味がする。親神様は結構にお与え下されてある」を身に感じ、高くなりがちな心を低くして、新しい自分を発見し、そこから人様を優しく育む心を作っていく。私共夫婦を大きく育ててやりたい、信仰の喜びを感じさせてやりたいという親心を悟ることができるようになりました。

その思召を悟ってからは、私の心も軽くなり、自分らしく、一人住まいの方には神様のおさがりで作ったおかずを持つて行き、入院しているおばあさんにはおさづけを取り次がせて頂き、誕生日には手作りケーキをせっせと作り、手拍子でお祝いの歌を歌いました。毎日、自転車でおたすけに通うことができる喜び。一度切れた信者さんが再び教会に足を運んで下さったときの喜び。さらに掘り起こした4人の信者さんと私たち家族が晴れ晴れとした心で賑やかに教会のひのきしんをさせて頂いたときの喜びと、多くの喜びを味わうことができました。

真柱様は「おたすけの道具は、心と言葉と行いであることを忘れてはなりません」とお話し下さったことを実感いたしました。

しかし、現実はなかなか厳しいのです。毎月やってくる銀行の支払いに、私の心は大変な人間思案で揺らぐのです。

その時期、片山昇4代会長様は私たち夫婦の心を見抜いて、「神様の御用に人間思案を使うことはならぬ。今から天理へ帰る。夫婦で勤めるように」とのことです。

私は「え、子供はどうなるの」と不安になりましたが、「今と言えば今」の仕込みでしたから、子供には「今から神様の御用で、天理に行つて来るね。頼むね」と辛抱するように言いました。

私は子供を置いて離れる緊張感を伝えることで、子供と気持ちが繋がりを理解し合い、安心感を覚えしました。そして毎月この繰り返しでしたが、子供は非常に強いのです。そこに不足心はありませんでした。言葉は心をつなぐ宝です。

今思い返せば、4代会長様は私達の間人思案を危ぶみ、親と子を離してまで神一条の勤めを貫き通す大切さ、おたすけ頂く筋道をお見せ下さったように思います。

その後、子供達は大教会でお育て頂くことになりました。私達夫婦は昇会長様の指示で動いておりましたので、

子供とは大教会と崇徳の月次祭前後の数日だけ一緒に過ごす状況でした。

でも3人の子供達は、親に会える嬉しさで大教会から崇徳へ意気揚々と帰ってきました。そこで会長である父親より、神様の道具の扱い方や、ご神饌の方法を教えました。そのうち祭典前に会長が不在のときは、子供達で祭典準備をするようになりました。

親は子供に口で教えるより、自分の姿を見せて感化させていくことが最も大切なことだと思えます。

立教175年1月27日の少年会年頭幹部会において真柱様は「信念を持つて、子供の頃に身につけられたことは、いつまでも心に残ります。まだ何ものにも染まらない素直で純白な子供の心に信仰の喜びをしつかり、映さなければならぬのです。子供の心に何を映すか。それは、親自身の信仰の喜び」であるとお示し下さいました。

教会復興には少年会活動を中心に進め、「集める理より集まる理」でご守護頂けるよう必死で踏ん張って行こうと、教会の歩む方向を定めました。

初め少年会活動と申しても、我が子は大教会ですから、教会に子供がいません。そこで思いついたのが拍子木を持って近所の神名流しをして、天理教

の教会があることを知らせることから始めました。

続いて、カラー鉛筆で1枚ずつ「子どもおおぼがえり募集！天理教少年会崇徳隊」とリーフレットを自作し、持つて歩きました。そこから不思議なご縁を頂き、教会につながる方が現れてまいりました。

お道の教えは理屈ではなく、毎日の生活の中から次第に納得しながら分かってくるのではないのでしょうか。

崇徳の少年会活動は、若い会長夫婦が後を継ぎ、今日まで途切れることなく続いております。

高垣家の信仰の元一日になる高垣光蔵先生は、片山好造会長様のお言葉を戴いて朝鮮満州へ布教に出られ、いんねん納消の道を歩んで伏せ込まれました。

その奇しき縁と申しましようか、昇会長様より御命を頂き、次男はアメリカのロサンゼルスで生活することになりました。中学1年生でした。ところが渡米して1年、教祖100年祭の旬に昇会長様はお出直しになりました。子供達の心の内はどんなに不安だったでしょう。計り知れないものがあります。そして次男は大学卒業後、大教会よ

りシカゴの教会を拠点に生活するようにと命ぜられ、単身シカゴへ向かいました。ロスでやっとできた友達と別れ、知らないシカゴの街で一からの生活。教会に住み込んで、必死に毎日を生きてきたと申します。

子供が真剣に悩むときこそ、親の立ち位置が最も大切だと思います。人との会話が少なくなると気持ち荒み、信仰から遠のいてしまいます。自分の周りから神様の思召が見えなくなってくるのです。

そのときこそ親は子を信じ、優しく、時には厳しく、つなぎの言葉で親の心を伝えるのです。このとき夫婦関係がきちんと治まっていることが、子供にとって一番の効能です。

次男はこの事情により、専修科と修養科へと心の修養とひのきしんに励ませて頂くふしとなりました。

長男は親里の附属高校に進学いたしました。事情により卒業延期処分。さらに第二専修科では刑事事件を起こして退学処分が下されました。

このとき主人は直ぐ学長のもとへ出向き、お詫びを申し上げた上で「これから道のように、ぼくとして大きく成長す

る若者を、退学の一言で片付けられないほしい」と切に願ひ出ました。

その後、長男は大教会でお詫びの青年づとめを1年勤めさせて頂き、続いて第二専修科で復学審査のためのプログラムを受けました。それは毎日同じプログラムを時間通り繰り返す、辛抱と我慢強さが求められる大変厳しい内容でした。

私は、長男が教祖から心が離れることのないようしつかりすがってほしいと願っておりましたところ、ようやく謹慎が解けました。そしてその夏、「こどもおちばがえり」でパレード誘導係をびしつと真面目に勤めている姿を見たとき、心の底から喜びと感激がこみ上げ、思わず手を合わせている自分がありました。

長男はこのように言いました。「僕は今まで事情を起こすたびに父から厳しいお諭しを受けたけれども、怒られたという感覚は一度もなかった。第二専修科の事情のときも父は涙しながら『自分は一生懸命、いんねん、納消の道をひたすら歩ませてもらってきた。しかし、いんねんは切れていなかった。申し訳なかった』と詫びたのだ」と。おさしづに、

「いんねん」という理を聞き分け。しようと思うて成るやない。しようまいと思っても成って来るのが、いんねんの理と言う。」

(明治27年5月31日)

「辛い日を辛いと思わんよう。辛い日は楽しみ。辛い日辛いと思うから間違う。聞き分け。一日という。辛い中く、辛い理より一つこのうあるまい。しんどの中に実がある。楽の中に実が無い。」

(明治32年12月6日)

長男はこのふしのおかげで神一条を体得させて頂き、ご恩報じの道を歩む心を作らせて頂くことができたと思います。

そして、次男はシカゴに戻り、結婚させて頂きましたが、教会住み込み生活のもつれから離婚の危機に発展しました。私達は次男に、日本に帰って帰ること夫婦の問題が解決するならば「帰国すると僕の価値がなくなってしまう」と辛抱の心でシカゴにとどまりました。

立教156年1月27日の少年会年頭幹部会において、前真柱様は、「どんな困難に出あつてもくじけない勇氣、失敗

しても失敗しても、教祖の教えは絶対だという信念の上に立つて繰り返さならなる努力、辛抱、堪忍から喜びを見いだす熱意は、道の子に是が非でも身につけてもらいたいことなのです」と仰せられました。

私共の今日までの歩みは、歴代の大教会長様より戴きました数々の課題に必死に取り組み、どんな困難な中も辛抱して貫き通す姿を子供達に示す道であつたように思います。さらに3人の子は、父親のだからで包み込む言葉と人様を喜ばせることに一生懸命の姿を見て育ちました。

崇徳の教会をお預かりして35年。大教会と自教会を往復する中に信仰の喜びを感じ、「ヨシツ」と心を定めること、次代を担う人材育成ではないかと思ひます。

それぞれ親神様からお与え頂いている立場は違いますが、自身の立ち位置からたんのうの心を治め、道を求め、心と言葉と行いに誠実実を込めて日々ニコニコと、いそいそと歩ませて頂きとうございます。

ご清聴ありがとうございました。

(文責・本島通信編集室)

八月月次祭 祭典役割

獻饗長 片山勲
伝供 寺本教生・雲庵道延・窪田靖明・篠原不王・永山晴明・岡崎八十則・岩橋竜造・平井真治郎・大上道徳・茶屋原良昭・吉田知彦・高島栄造・河村旬一・宮路和徳・沖野一道・奥村龍夫・肥後章・位下道治・加藤文男

伊東康成・松下正三・香川秀孝・宮路茂照・山下英久・時久英次・鎌田典夫・溝口晋太郎・上野作也

雅楽奉仕者 文岡育則・高垣光治・雲庵春彦・大矢万三・片山直明・長尾海和・岩橋守行・伊東賢太郎・鎌田康典・鎌田仁史(順不同)

祭主 指図方	大教会長		座りづとめ	てをどり前半		てをどり後半	
	片山肇	厩者		井上哲	賛者	向所隆文	永島宗行
地方	岩橋慶三 老木邦光 西山道教	窪田靖明 篠原不王 永山晴明	大上道徳 茶屋原良昭 大矢万三	井上哲 岩橋竜造 高島栄造 池田さわみ 向所暉美子 花田菊子	平井真治郎 長尾海和 渡部友見 篠原久子 岡崎むつゑ 長尾善絵	香川秀孝 溝口晋太郎 河村旬一 鎌田典夫 上山康雄 岩橋守行	高垣恒子 片山孝代 原口和子 肥後良子
てをどり	牧野道昭 寺本管一郎 岡崎俊郎 高島清弘 寺本教生 雲庵道延 片山榮 牧野ハル子 片山孝代	高垣光治 菅岡繁幸 花田百一 岡崎八十則 吉田知彦 向所隆文 老木加代子 雲庵まち子 原口和子	高垣恒子 香川秀孝 溝口晋太郎 河村旬一 鎌田典夫 上山康雄 岩橋守行	菅岡繁幸 花田百一 岡崎八十則 吉田知彦 向所隆文 老木加代子 雲庵まち子 原口和子	高垣恒子 香川秀孝 溝口晋太郎 河村旬一 鎌田典夫 上山康雄 岩橋守行	高垣恒子 香川秀孝 溝口晋太郎 河村旬一 鎌田典夫 上山康雄 岩橋守行	高垣恒子 香川秀孝 溝口晋太郎 河村旬一 鎌田典夫 上山康雄 岩橋守行

八月月次祭祭文

立教一八〇年八月二十二日

この神床にお鎮り下さいます親神天理玉命の御前に天理教本島大教会長片山幹太慎んで申し上げます。親神様には、「にちくくにをやるのしやんとゆづものわたすけるもよふばかりをもてる」との深い親心から、この世の真実のをやを明かし、陽気ぐらしへのひながたの道をお示し下さり、つとめを教えて自由のお働きのもとに、陽気ぐらしへの道へとお連れ通り下さいます果てしないご愛の程は、まことに有難く勿体ない限りでございます。

私共は届かぬながらも積もり重なる御恩にお報いさせて頂くことを念じて、たすけ一条に懸命に努めさせて頂いておりますが、その中にも今日の吉日は、当大教会の月毎の御祭日を迎えましたので、只今から役目に与るおつとめ奉仕者一同、心を一つに揃え、御教え通り、座りづとめ、てをどりを陽気に勇んで、八月の月次祭を執り行わせて頂きます。

御前には、厳しい暑さといわず、国々所々から帰り集いました教え子達と共に、この月十九日から今日まで開催いたしました少年会本島団第二十八回おつとめ総会と夏のつどいに参加した少年会員達、感謝の心一杯に御礼申し上げ、将来に亘つて道の御用に役立させて頂けるよう、一層のお導きと御守護にお継りする真実の状を、ご覧下さいまして、親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます。

事分けて、去る七月二十六日夕刻にお見せ頂きました「かんろだい」のふしについて、内統領・山澤廣昭先生から「私たちの信仰態度が親神様の思召に沿いきったものなのかどうかを、強くお知らせ下さい

たものと思案する。また、「お互い、ちば一条、神一条の精神を再確認することが必要だと思えます」等のお言葉を頂き、更に「このふしを我がことと捉えて、心を育てる活ぶしにさせて頂けるよう」との論議に、しっかりと沿わせて頂くことを決意して、来る八月二十四日夕勤後の「かんろだい」すえかえの儀に臨みたいと念じております。

なお、来る九月一日午前十時より、御存命の教祖の御前において、真柱継承者・中山大亮様と上川布恵様の結婚式を奉行されるにあたり、この、全教よぶづくの慶事を共々にお祝い申し上げます。

加えて、八月二十八日から来年三月二十四日まで、教えに基づく生き方を身につけることを目的として、おらば開催される存存者対象の「後継者講習会」に心を注ぎ、推進と丹精に努めさせて頂く所存でございます。何卒、時旬に適う成人の歩みを、一歩一歩と進めて、教祖のひながたを心の定規として、陽気ぐらし世界建設へと、一層のお導きの程を一同と共に慎んでお願い申し上げます。(原文のまま)

入社祭

立教180年8月22日、大教会入社祭はありませんでした。

8月22日(火)
【香川県丸亀市】

天候 薄曇後時々晴

最低気温 26.2℃
 最高気温 35.4℃
 平均気圧 1002.9hPa
 平均湿度 72%
 平均風速 1.9m/s
 日照時間 6.7時間
 降水量 0.0mm
 ※ 降水量は一日の総雨量

攝滋分教会 3 代会長就任奉告祭



攝滋分教会(井上邦子)会長、滋賀県高島市)では、前会長

井上周治氏のお出直しにより、5月26日のお運びで前会長夫人・井上邦子氏の教会長任命の理のお許しを戴いておりますが、去る8月13日午前11時より、大教会長夫妻(随行・片山好治役員)を迎え、3代会長就任奉告祭を執り行いました。参拝者22名。

挨拶に立った大教会長はまず奉告祭の意義について、教会とは何かを振り返ること、親神様の思召を温ねることの二つを示され、「教会は人様にたすかすかして頂きたいという心に切り替えるおたすけの場」であり、「親神様の思召は陽気ぐらしをさせたいという親心。かしの・かりものの

教理を心に治めて、ご恩報の道に努めさせて頂きましよう」と促されました。この日は30℃を超える真夏日となりましたが、続いて勇んでおつとめが勤められました。

井上邦子氏略歴

昭和15年11月5日生まれ。昭和44年11月9日、おさづけの理拝戴。昭和47年9月27日、修養科第375期修了。昭和49年8月19日、教会長資格検定合格。昭和54年7月13日、教人登録。立教180年5月26日、攝滋分教会3代会長拝命。

〔備考〕井上邦子氏は攝滋分教会の名称になってからは3代会長ですが、前身の攝錦分教会から教える5代会長となります。



各地の動き

あらきとつりよう入門塾

青年会本島分会(片山秀明委員長)では、8月6日午前9時から午後1時まで、本島詰所において「あらきとつりよう入門塾」を実施。学生5名、委員4名の計9名が参加しました。

これは青年会でも最も若い学生層の会員が、青年会活動に移行しやすいように、毎年夏に実施されているものです。まず青年会のビデオを視



聴し練り合い、続いて天理駅までゴミ拾い。駅前で路傍講演を行いました。

演。さらに詰所まで神名流しを行いました。

こかん様に続く会

婦人会女子青年部(原口い



つほ委員長)では、8月6日午前9時から午後1

時まで、本島詰所において「こかん様に続く会」を実施。若き女子青年7名が集いました。

まず原口和子・本島支部女子青年担当委員よりお話があり、その後、浪速の辻で神名を流されたこかん様に続き、詰所から本部神殿まで神名流しを行いました。

さらに記念品づくりとして、トートバッグの飾り付けをしなが、親交を深めました。

学生会サマーキャンプ

本島学生会池田さわみ担当委員長)では、8月16日から19日まで、天理と大教会でサマーキャンプを実施。スパワールドに行ったり、バーベキューや花火で遊びながら親睦を深め、続いて19日より大

教会で行われた少年会「おつとめ総会と夏のつどい」のカウンセラーとしてひのきしんに汗を流しました。

MOMOMO

婦人会本島支部(片山かおり支部長)では、若いお母さんと少年会員を子育て中のお母さんを対象としたMOMOMOの会を、8月20日午後8時より大教会において開催。11名が集いました。

「こどもおちばがえり」について、どのようにお誘いしてきたか、それぞれの経験をもとに活発な練り合いが90分間行われました。



立教180年ごどもおちばがえり

本島団鼓笛隊 第102回夏季入宿



日が続き、特に7月30日は35・5℃の猛暑を記録する中、大きな事故や怪我なく元気に練習に励みました。おつとめのお手直しや教話、宿題学習の時間をとったり、海濱行事や焼肉なども楽しみました。

8月1日、大教会よりおち

本島団鼓笛隊(鎌田典夫部長)では、7月26日から8月4日までの日程で第104回夏季合宿を大教会と詰所にて実施し、164名が参加しました。(下

リーム隊34名、本隊72名、高校生9名、リーダー49名。前年より15名増)

今回の合宿は、ごどもおちばがえり初日にかんろだいのふしをお見せ頂き、リーダー銘々が親神様の思召を思案しながら合宿に臨みました。

大教会では連日晴天の真夏

ろがれ・たすけあい」を南礼拝場前で演奏しました。続いて鼓笛オンパレード

では、まずドリーム隊がコーヒーブレイク、エレメントラリーマーチを、声も動きも元気よく行進しました。

本隊は新曲「ウエストポイントマーチ」を、迫力ある演奏とドリルで堂々行進しました。

最終日の4日、第52回総会を開催。大教会長様より「親神様にいつも守られているという感謝の気持ちを持ち、思いやりの心を持つことが大切です」とお話を頂きました。

本部神殿でお礼づとめを勤めさせて頂いて後、詰所にてパーティー。指導員や高校生の演芸とごちそうで子供達をもてなしました。

なお鼓笛オンパレード審査の結果、ドリーム隊は奨励賞、本隊は金賞、ドリルチームは優秀演技賞を受賞しました。

樺太分教会おとまり会

樺太分教会(平井真治郎会長、北海道美唄市)では、8月10日から1泊2日で教会おとまり会を実施。少年会員15名、育成会員8名が参加しました。

今年「かんしゃ・よろこび・たすけあい」をテーマに、教話、おてふり練習、プール、焼肉、花火、室内レクレーション、教会周辺ごみ拾い、宝探しゲーム、海水浴など盛りだくさんの内容でした。

実施にあたり今年も「おとまり会」のチラシを作成して積極的に声を掛け、少年会員は昨年より5名多く参加してくれました。



赤峰分教会おとまり会

赤峰分教会(向所隆文会長、宮崎県都城市)では、8月13日より2泊3日間、赤峰少年会教会おとまり会を実施。少年会員19名、育成会員14名が参加しました。

教話、鳴物稽古、飯ごう炊さん3回、流しそうめん、プール、肝試しなどを行い、最終日の祭典直会で元気にダンスを披露しました。

また今年、カレーと一緒にナンを自作したり、ミラーボールの下でスイカ割り、夜は野外の芝生で寝たり、新しい企画も盛りだくさん。スタッフのほとんどが平成生まれで、次世代を感じさせるおとまり会でした。



第28回おつとめ総会と夏のつどい

少年会本島団(岩橋竜造団長)では8月19日から22日まで、大教会において「第28回おつとめ総会と夏のつどい」を開催。今年は「ご恩報じ」をテーマに掲げ、少年会員たちに、親神様のご守護に感謝の気持ちを感じてもらえるよう取り組みました。

昨年は天理で少年会本島団総会を実施したため、2年ぶりとなる「おつとめ総会」。子供達の宿泊は従来の屋釜キャンプ場から大教会信者会館3階に変わり、さらに担当する少年会委員の顔ぶれも新しく、準備は一から手探りするように進められました。

夏休みも終盤にかかった8月19日、少年会員たちが大教会に集合し、まずおつとめのお話とお手直しを行いました。20日午前は講堂でおつとめと祭儀式のリハーサル。特に心を一つに音を合わせることを重点的に稽古しました。



昼食後、おつとめ着に身を整えた少年会員は、午後1時より大教会長様はじめ来賓の先生方のご臨席のもと、神殿にて「おつとめ総会」を執り行いました。

少年会員たちは皆真剣におつとめを勤め、それぞれの教会で練習してきた成果をご覧頂きました。

続いて総会で挨拶に立った大教会長は「親神様のご恩に報いるためには、まず感謝させて頂くこと。親神様が身体をお貸しくださっていること



に感謝し、親神様、教祖が喜んでくださることを実践しましょう。そのためには人に喜んでもらえるような心遣い、行いをしましょう。このおつとめは人をたすけるおつとめ。人の助かりを祈って、人のためにつとめることが大切です」と述べられました。

21日は終日、屋釜海水浴場で海水浴に。モーターボートでの遊覧や、ジェットスキー、バナナボートも楽しみました。夜は神殿前広場で記念パーティーを催し、一般帰参者の皆様とともに、丸亀名物の骨付鶏や美味しい料理を頂きながら、余興を楽しみました。

なお参加した少年会員は92名。一昨年より16名多く、賑やかな総会となりました。

婦人会本島支部 委員部長講習会

婦人会本島支部(片山かおり支部長)は8月24、25日に委員部長講習会を開催し、32名が受講しました。

この講習会は全委員部長が受講できるよう3年間で、今回は昨年11月に続き第2回目の講習会となります。

初日は開講式の後、枕製の各部屋に備え付けているソバ殻の枕は、そのほとんどが詰所落成当初から使用しているもので、汚れも目立っていることから、婦人会として3回の講習会を通じて300個の枕を新たに作るうというもの。新しい生地



を裁断し、中にカットパイプを詰め、現在の枕より低めの枕を製作しています。

2日目は「発達障害のある方へのおたすけ」と題して阪口由美子先生(敷島部属)をお招きし、90分間の講話を頂きました。

阪口先生は「ハートママの会(発達障害の理解を深める親の会)」の代表を務め、自閉症、アスペルガー症候群、広汎性発達障害、注意欠陥多動性障害、学習障害など発達障害がある子どもを持つ保護者を支援する活動をされています。質疑応答では専門的な知見にもとづき明解にお答えくださいました。

最終回となる次回は来年5月に実施する予定です。阪口先生の講話も今回と同じく頂きます。

なお、初日の夕づとめ後、「かんろだいすえかえ之儀」が執り行われ、全員で参拝しました。

事情はいび

立教180年8月、本島関係のお運びはありませんでした。

おさびの理拝戴

(立教180年7月分)

- ▼雄福峰△梅木修 ▼銀峰△滝聡平 ▼エヌ・シー△シン
 - グルトン・マライカ ▼キャピタル△オイキ・ケーシー・トシキ
- 【計4名】

修養科第91期修了

(立教180年8月27日修了)

- ▼本平濱△位下陽 ▼吉峰△益田めぐみ ▼雄福峰△伊藤明子△山寄潤
- 【計4名】

おさびのお取り次ぎ報告

(立教180年8月22日)

- 提出教会 23教会
 - 報告数 1,029回
 - 累計 11,381回
- ※前年同月累計差 2542回減

教人資格講習会修了

(立教180年8月10日修了)

- 本米 白鳥有子
- 【計1名】

をびや許し

(立教180年7月分)

- ▼仙峰△松田文字
- 【計1名】

証拠守り下附

(立教180年7月分)

- 雅峰1
- 【計1名】

ろくぢ会

(立教180年8月分)

- ▼本島△片山幹太・片山かおり・香葉子・幹太郎・好次・昇太△長尾真実・幸太△片山秀明△藤山さちよ ▼樺太分教会 ▼本樺分教会 ▼本浜△片山清枝・正枝・誠
 - ▼本攝△片山元一・直道・菜々 ▼崇徳分教会 ▼阿波本徳分教会 ▼赤峰分教会 ▼ポートランド教会△片山和信・陽子・昇慶・竜次 ▼シートック教会
- ご芳志に厚くお礼申し上げます

大教会長動向

▼9月(予定)▲

- 1日、大亮様布恵様結婚式
 - 2日、後継者講習会第2次
 - 6~9日、教人資格講習会講師
 - 10日、後継者講習会第3次
 - 11日、本島後分教区月次祭弔慰教
 - 12日、本陽泉分教会参拝
 - 本清保分教会参拝
 - 別峰分教会参拝
 - 13日、本九台分教会参拝
 - 雄福峰分教会参拝
 - 17日、安藝本中分教会 4代会長池田タマヨ40年祭
 - 5代会長池田昭弘20年祭
 - 22日、大教会月次祭執行
 - 23日、大教会秋季霊祭執行
 - 24日、後継者講習会第5次
 - 26日、本部月次祭参拝
 - 28日、全教一斉にいがけデー
 - 29日、10月12日、アメリカ巡教
- 以上



寺本管一郎翁の家族が本島に移り住んだのは小学6年生のときで、それ以前は児島の琴浦分教会に住み込んでいた。

夏休みになると、教会の坂を下ったところにある唐琴の海岸で、朝から晩まで遊んだ。

友だちは皆お弁当を持参してくるが、教会は貧しいので管一郎少年には弁当がない。それでも腹は減るので、岩場に生息している貝類を採って食べることを覚え、ひと夏ずつとカキで空腹を満たした。

夏場にカキ? と思いついてみたところ、夏が岩ガキの旬で、真ガキは冬が美味いらしい。意外にも岡山県はカキの生産量全国3位(平成26年度、特に日生の真ガキは下津井のタコと並んで岡山県が誇る水産品とのことだ。

「ひと夏で一生分のカキを食ったんか、それから80年近くカキは食つたらん」

たしか先月は岩荷を一度も食べていないという話を聞いた。

「二度、3代会長さんの随行で広島の教会へ行かしてもらったとき、豪勢なカキの土手鍋を用意して下さった。そのときは、水菜しか食えなかった」

翁の話から、食い物の記憶は何十年も残ることを学んだ。(向所)

「学生生徒修養会高校の部」受講者名簿(立教180年8月9日~15日)

- ▼受講生 3年生 ▼本恵△今井初音 ▼赤峰△宇野竜太郎
 - ▼栄峰△大矢龍治 ▼吉松峰△芝野貴博
 - ▼受講生 2年生 ▼本恵△沖野諒 ▼栄皇峰△清水道明
 - ▼雄福峰△北山妙子 ▼實峰△山内智子 ▼仙峰△向所あゆみ
 - ▼受講生 1年生 ▼本府中△吉田優志△村上あゆみ ▼与島△岡崎一志 ▼本千嘉△立花飛勇樂 ▼赤峰△宇野七美
 - ▼恵△原田尚実 ▼肥後八峰△森光征
 - ▼講師・スタッフ ▼本京△牧野善明 ▼本攝△片山直明
 - ▼本備前△伊東賢太郎 ▼本高△菅岡あや△菅岡繁理
 - ▼栄東峰△川村美穂
- 【計16名】



全教一齊にをいかけデー

【布教部】

- 期間：9月28日より30日まで
- 教会長務務講演の日：9月28日

育成に役立つ講習会

【本島学生担当委員会】

- 日時：9月24日(日) 午前9時から午後4時
- 会場：本島詰所
- 対象：育成に関わる方(学生も可)
- 講師：田邊幹善先生(中野大・一越分教会長)
- 内容：教会に繋がる方とのコミュニケーションの取り方など
- 申込方法：本島大教会または詰所にFAXで、氏名、年齢、教会名、電話番号をお知らせ下さい
- 詳細については、担当(牧野善明：090-5407-4004)まで

第93回天理教青年会総会

【青年会】

- 式典：10月27日(金)午前10時
- 会場：本部中庭

御成婚慶びの集い

【御成婚慶びの集い実行委員会】

- 中山大亮様 布恵様「御成婚慶びの集い」
- 日時：10月26日(木)夕づとめ後
- 場所：東礼拝場前からおやさとやかた真東棟前広場まで

青年会本島分会総会

【青年会本島分会】

- 日時：11月23日(祝)
- 会場：本島大教会

人材育成講習会

【教会長子弟育成委員会】

- 日時：10月25日(水) 午後7時より8時30分
- 会場：本島詰所4階講堂
- 講師：井筒梅夫先生(本部員・布教部長・芦津大教会長)
- 受講対象：教会長夫妻、布教所長夫妻、後継者夫妻、ようぼく、信者、教会長子弟育成者研修会受講者
- 内容：講話(約1時間)質疑応答
- 携行品：筆記用具
- ※おかえり講話ではありませんので、ご承知ください。

9月ひのきしん派遣依頼

【総務部】

〈大教会・炊事ひのきしん〉

- 期間：9月21日～23日
- 派遣教会：本攝②、安藝本中①

〈詰所炊事ひのきしん〉

- 期間：9月24日20:00～26日13:00
- 派遣教会：本京②、本邦①

<http://www.honjima.com/>

本島大教会ウェブサイト

統計(7月1日～31日)

教会名	初席	中席	要員	修養料	教人書	検定講習	にをいかけ名簿提出教会(8月)		
							本島	本恵	豪峰
本赤				1	1		0	7	33
本雅	1						4	10	10
本栄		1					4	49	49
大雄	1	1					1	14	14
大雄			1				3	2	2
栄星	1						28	20	20
大英	1						85	5	5
銀峰			1				4	4	4
新信		3					4	39	39
鶴峰		3					6	50	50
工ヌ・シー		1	1				2	12	12
キャピタル	1	1	1						
カリフォルニア		2							
合計	5	12	4	1	1	0	計36教会		640名

秋季霊祭のご案内

【本島大教会】

9月23日、大教会で執り行われる秋季霊祭には、左記の霊様が年祭に当たっておられますので、ご連絡いたします。

■一年祭
岡崎史朗主(サザン)

■三十年祭
高田カツミ刀自(本幹)

■五年祭
土居照子刀自(都峰)

■四十年祭
柴田貞一主(本柳台)

大上千代子刀自(本島)

加藤りきえ刀自(本陸奥)

永島タキエ刀自(渋谷)

濱野きよ刀自(本島)

谷口昭二主(本倉岡)

白垣ヌイ刀自(本廣)

■十年祭
向所満弘主(赤峰)

黒原智直主(ワイルン)

藤井年恵刀自(本島)

岡崎正史主(サザン)

藤井秀雄主(本島)

太田ヨネ刀自(本福)

■二十年祭
大野原順三主(月見山)

江川義清主(同朋)

大野原澄子刀自(月見山)

【計21霊】

※なお、教名は連絡先であり、実際の所属とは異なる場合があります。